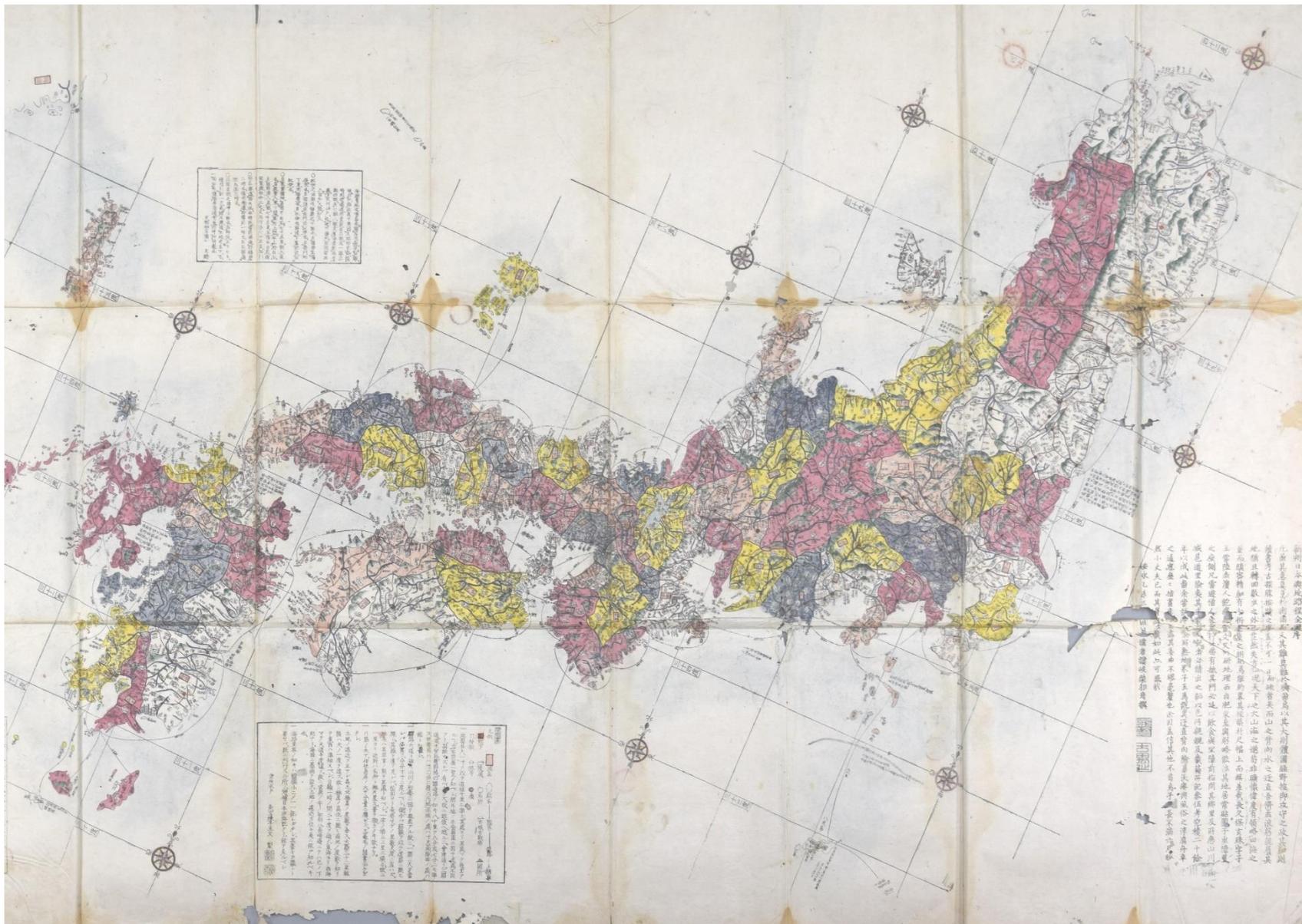


「改正日本輿地路程全図」

(寒川郡富田中村有馬家文書

372)



【資料名】 改正日本輿地路程全図

【年代】 天保十一年(一八四〇)三月

【作成】 長久保赤水

【解説】

長久保赤水是農家に生まれ学問に傾倒、のちには水戸藩の侍講などをつとめた。赤水が安永八年(一七七九)に刊行した「改正日本輿地路程全図」(赤水日本図)はロングセラーとなって版を重ね、本資料はその第五版。

赤水日本図は刊行された日本図で初めて経緯線を記載するなど、その正確さ、詳細さで知られる。とはいえ同じ時期には伊能忠敬が全国を測量調査士実測による日本図を作成したのとは対照的に、赤水是実測を伴わず各地の情報を収集しそれを編集することで作成している。

下部中央の凡例では街道の道のりをはかる際、正確に測るために絹糸を用いるよう勧めるなど実用に即した記載が見られる。

一方で川の太さや鳥居の印が縮尺通りであれば数キロメートルに及ぶことになるが、これは実際の大きさは違う事の弁明も記されている。現在の我々から見ると笑ってしまうようなことであるが、正確さを求めただけに、不正確な部分には注意書きを加えたくなったものであろうか。

牟礼村(現在の高松市)出身の儒者柴野栗山が著した序文もあり、地図作成に二十年の考究を費やしたことなどが述べられている。

江戸時代、最も普及した日本図の一つであり、またその精度の点でも日本図の一つの到達点と言えるものである。